

授業科目名 (英文名)	会計学入門 (国際商経・専門科目) (Introductory Accounting (J))	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	
担当教員	辻川 尚起	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>この講義は、経済社会を支える重要な制度・技術の1つである会計について、その最も基本的な構成要素である財務諸表の概説を中心しつつ、会計の役割や会計ブームそして会計数値の利用手段などに関して、会計をはじめて学ぶ人にわかりやすいように解説することを目的としています。</p> <p>そもそも会計とは？ 例えばスポーツ競技や勉強など、その努力の積み重ねのプロセスや結果は、「めっちゃ、ちょっと、全然」など人により捉え方の変わる主観的表現ではなく、スコアや偏差値などで数値化し測定することで客観的にわかりやすくなり、過去・現在・将来を評価・比較しやすくなります。同様の目的で、会計は、ビジネスやマネジメントを「数字で見える化」する手段・行為です。</p> <p>会計の意義・役割、財務諸表の構造と関係性、活用方法について、基礎的な内容を理解できるようになることが到達目標です。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容</p> <p>まず、会計学の分析対象と財務会計の制度について概観します。次に、会計に関する最も重要な3つの書類（財務諸表）、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造と読み方を説明します。そして、これらの財務諸表の相互関係を活かして、さらに企業の実態を分析する方法を検討します。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス -会計学とは何か-</p> <p>第2回 会計学の対象と範囲</p> <p>第3回 会計の制度(1)</p> <p>第4回 会計の制度(2)</p> <p>第5回 会計の制度(3)</p> <p>第6回 貸借対照表(1)</p> <p>第7回 貸借対照表(2)</p> <p>第8回 損益計算書(1)</p> <p>第9回 損益計算書(2)</p> <p>第10回 キャッシュ・フロー計算書(1)</p> <p>第11回 キャッシュ・フロー計算書(2)</p> <p>第12回 財務諸表分析の基礎(1)</p> <p>第13回 財務諸表分析の基礎(2)</p> <p>第14回 財務諸表分析の基礎(3)</p> <p>第15回 財務諸表分析の基礎(4)</p> <p>第16回 評価</p>		
テキスト	<p>第1回の講義をきいてから購入してください。</p> <p>内藤文雄[2018]『会計学エッセンス 第3版』中央経済社（旧版・学術情報館所収）。</p>		
参考文献	<p>桜井久勝・須田一幸[2018]『財務会計・入門-企業活動を描き出す会計情報とその活用- 第12版』白桃書房（旧版・学術情報館所収）。</p> <p>永野則雄[2018]『ケースでまなぶ財務会計-新聞記事のケースを通して財務会計の基礎をまなぶ- 第8版』有斐閣（旧版・学術情報館所収）。</p>		
成績評価の基準・方法	<p>原則として、中間テスト（40点）、レポート（20点）、期末試験（40点）を総合して判定します。出席はとりません。</p> <p>なお、成績評価に関しては、この講義に対する下記のような理解度を目安とします。</p> <p>(S・秀)講義内容を網羅的に適切に理解し、発展的・実践的に活用することができる。</p> <p>(A・優)講義内容のうち、基礎的・応用的な事項の理解ができており、活用することができる。</p> <p>(B・良)講義内容のうち、基礎的・応用的な事項の理解がおおむねできている。</p> <p>(C・可)講義内容のうち、基礎的な事項の理解がおおむねできている。</p>		

履修上の注意・履修要件	会計学初学者を前提に講義しますので、履修済み科目等は全くありません。関連があるという意味で、経営学系統の科目を履修するとより理解が進むでしょう。また、予習・復習が必要となることは当然のことであり、特に科目の性質上、復習を重点的に行うことが講義の理解度を高めるために求められます。
実践的教育	
備考	